

# 寺崎の神社仏閣

寺崎には、次の四柱を祀った神社がある。

●妙見さま（天御中主） ●八幡さま ●弁天さま ●子安さま

“妙見さま”と“弁天さま”と“子安さま”は、台地の中段に次の画像のように安置されている。



“八幡さま”は、沖寺崎集落の中心に安置されている。

---

## 妙見さま



・創立；天安2年九月（西暦858年）；**岡寺崎の産土神社**

平安時代になって50年を過ぎた頃にあたる。当時は将門の乱で有名な平の将門の祖先である桓武天皇の曾孫にあたる高望王が平姓を賜り従五位下上総介として房総に入る40年も前のことで、都から離れた東国**上総はまだ未開の国であった**。第3代天台座主である慈覚大師の晩年に当たる。

・祭神；**天之御中主命**（あめのみなかぬしのみこと） 本来、この神社の祭神は将門に代表される**桓武平氏の信仰が厚かった妙見菩薩が祭神であった**ので“妙見さま”と言っていたが、明治初期になって、神社本庁からの命令で【妙見菩薩＝天之御中主命】とされた。

・逸話1；**水あたりに効験**。

平成11年の暮、習志野在住のSさんが実は京都に旅行に行った際、水に当たったらしく具合が悪くなった。そこで、何時もお願いしている新潟の方の祈祷師にお伺いを立てたところ、「山武市寺崎にある妙見様にお参りし、お祓いを受ける！」とのお達しがあったので・・・と笹川宮司に連絡があり、お祓いをしてあげた。・・・ということがあった。なぜ、寺崎の妙見さまか？の理由は言われなかったが、この妙見様の崖下に湧水池があり、水と関係があることから、水あたりした場合、お参りしてお祓いを受ける と、霊験あらたかな神社らしいとのことで評判である。なお、Sさんは、その後も人知れずお詣りされて居り、お賽銭を奉納していただいております。

・逸話2；秋のお祭りでは、明治の頃までは**神輿の渡御**があり、または**しご乗り**のイベントも開催されていた。その証拠の梯子は数年前まで、光福寺の境内に保管されていた。一方、神輿は宮本の家保管されていたのであるが、宮本が火災に逢い、そのとき消失してしまったそうである。以来、神輿の渡御もはしご乗りも中止になってしまった。



妙見神社祭礼での はしご乗り (イメージ)

---

## 八幡さま



- ・創立；江戸時代の初期；**沖寺崎の産土神社**

江戸時代の初期、新田開発して稲作にシフトした寺崎の祖先が新しい土地での生活の安寧を祈願して上方から勧請したものと推定される。

- ・祭神；**八幡神（武神）**
- ・逸話；靈験あらたかで、この神社にお参りして出征した兵隊で戦死した人は一人もいない。
- ・再建；平成31年2月、御殿の再建が完了した。



## 弁天さま・子安さま



●弁天様はもともと寺崎地区の東南端の地に祀られていたが、土地改良により農用地にされることになり、この地に 遷座したものである。

・逸話；この地の地頭の一人であった旗本 長谷川家へ礼儀見習いとして江戸の屋敷に奉公していた娘さんが、お殿様 のお手付きとなって子を出産した。ところが、産後の肥立ちが悪く、程なくして亡くなったため、憐れんだそのお殿様が この娘の故郷に葬って祀ったのが起源とのことである。

・伝説；その子がいわゆる**鬼平こと長谷川平蔵**であると伝承されている。

●子安様は、安産をかなえ、幼児の無事を守るとされる観世音菩薩。寺崎の母親の相互扶助講として、昔から子安講が

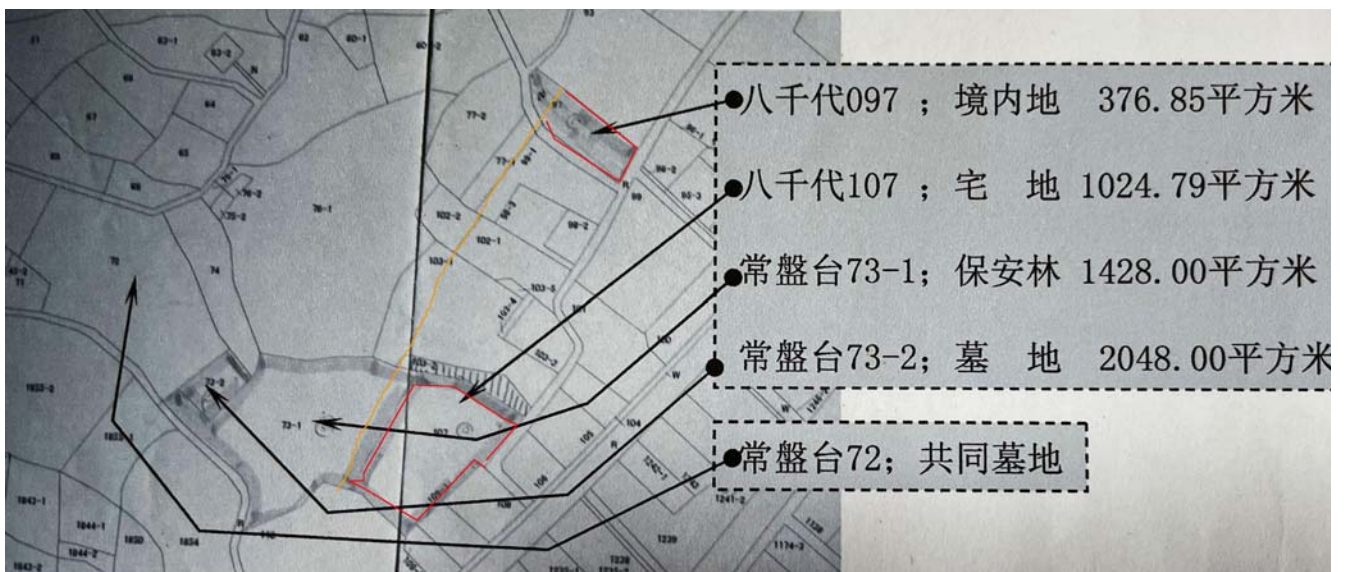
開催されていたが、少子化の影響を受け現在は廃止されてしまった。

---

## お薬師さま（光福寺）



koufukuji.jpg ・寺崎には、番場池の西側にもともと光福寺というお寺があったが、がけ崩れで崩壊してしまい、薬師堂だけが残り、  
現在、光福寺の本堂として利用されている。



・‘無縁仏供養塔’； 光福寺薬師堂の前庭に放置されていた無縁仏墓石を集めた供養塔である。平成24年1月建立

・‘庚申塔’； 造立の享保17年（1732年）は、前年からの大飢饉が続き農村は苦境に陥っていた。

寺崎村地頭の旗本・長谷川修理及び宮城采女はこれを憂い、五穀豊穰と村民の安隠を祈ってこれを建立した。

※県内でも数少ない**領主と農民の関係を象徴する石造物**であると言われている。

- ・【陰刻銘文】右面 : 御地頭 長谷川修理 宮城采女
- ・ 左面 : 享保十七年壬（みずのえ）子（ね） 十一月吉日 上総国武射郡寺崎村

- ・山武市文化財指定日 : 1997年11月21日。。

Copyright 2014 hyouemon